

江別の今と向き合う

大麻団地 50年

(2)



1. 大麻団地の集合住宅。50年を経た建物は老朽化が進む。2. 道警アパートを解体した後に建った大麻西町の新興住宅。好立地のためか2年ほどで多くの入居者が決まった。3. 大麻団地の特徴である袋小路（大麻中央公園付近）。4. 人通りが少なくなる商店街。

「進む高齢化と再生への道」

急増する道央圏の人口の受け皿として造成された道内初のニュータウン大麻団地ですが、現在では高齢化と建物の老朽化が進んでいます。それに伴い、地域のにぎわいの消失など市内の他の地区でも抱える問題が出てきています。

一方で、平成21年に策定した「大麻団地まちづくり指針」に基づき、市と市民、大学などが連携して、住みよい大麻団地まちづくりへの取り組みが進められています。

高齢化と住環境

入居した世帯が一斉に高齢化しているのが大麻団地の特徴です。年数の経過とともに大麻団地の高齢化率は30%（平成22年国勢調査）に達し、住宅も50年の月日を経て老朽化が進みます。結婚や就職で団地を出る人が多く、独居老人や空き家の増加、自治会活動、商店の担い手不足などにぎわいの低下につながって

います。

また、団地のバリアフリー化などの整備は進んでおらず、住居者の実態と住環境との乖離が起きています。医療・福祉施設の増設なども急務の課題です。

若い力や産学官民をあげた取り組みに再生の光

多くの課題解決に向け、大麻団地の持つ優れた特徴を生かし、再活性化の取り組みが行われています。

●大麻地区の立地の優位性

JR快速で札幌駅へ12分程度、野幌森林公園や大学、道立図書館などの文教施設に近く、住宅地として大麻地区は好環境と言えます。景観も美しく、閑静な住宅街であるため、再開発などで売り出された大麻西町周辺はすぐに買い手がみつかるなど、立地の優位性がうかがえます。

●学生の存在

大麻地区には市内の3大学

《さまざまな課題》

○空き家／空き家率は3%ほどで（国4%、北海道4%）で必ずしも深刻とは言えませんが、落雪危険家屋、害虫や雑草などが茂る原因にもなり、防犯・防災面でも見過ごせない問題です。

○商店街／団地内には東から順に大麻東町、大麻銀座、大麻中町、大麻扇町の主な商店街が4つありますが、店舗の老朽化や担い手不足、大型店の進出などにより、にぎわいをなくしつつあります。商店街の衰退は、地域活力の低下だけでなく、高齢者が歩いて買い物に行ける場所がなくなるという面でも問題です。

○除雪／年に1度、自治会排雪が入りますが、高齢化に伴い除雪の困難を嘆く住民は多くなっています。

また、大麻団地内は小路や袋小路（道路の奥が行き止まり）が多く、除排雪に影響が出ている部分があります。

当初、袋小路は子どもたちの通学などを考え、車が通り抜けできないようにと考え造成されました。



北海道電力による今夏（7～9月）の電力需給予想では、供給余力は44万kWh（供給予備率9.2%）で、安定供給に必要な予備率3%を上回る見通しですが、市では引き続き節電に取り組みます。電力需要をできるだけ少なくしていくことはリスクの低減につながります。

家庭においても、日頃からの小さな取り組みの積み重ねが大事です。不要な照明や見ていないテレビはこまめに消す、電気ポットや炊飯ジャーの長時間保温をやめるなどは節電効果があります。



● 節電アイデア ●

一昨年、道で節電アイデアを募集したところ、たくさんのアイデアが寄せられました。一例をご紹介します。

★扇風機編／扇風機の前に凍らせた2ℓのペットボトルを置きました。冷えた風に当たって暑さをしのぎ、のどが渴けば溶けた水を飲み、ダブルでエコに過ごせました。

その他のアイデアは北海道「ほっかいどう・省エネ3Sキャンペーン」のホームページで紹介されていますのでご覧ください。

● 市の節電 ●

市では昨夏、平成22年度比マイナス11%という節電目標を掲げ、結果的に目標を上回る12%の節電を達成しました。

今夏も節電目標を昨夏と同じマイナス11%として、7月1日～9月30日の間、集中的に節電の取り組みを進めます。

取り組み内容はこれまでと同じく照明の間引きやこまめな消灯、OA機器の省電力設定などが中心です。また、自家発電設備がある施設では、それらの稼働を増やしていくことも検討します。

【詳細】環境課環境政策担当 ☎ 381-1395

今夏も節電に取り組もう！

大麻を 見つめて



大麻扇町商店街の皆さん

大麻団地内の商店街の中でも、商店街の活性化に取り組み、少しずつにぎわいを取り戻している扇町商店街の皆さんにお話をお聞きました。

昔と比べると扇町商店街も寂しくなったそう。近くのスーパーが撤退してからは、人通りも少なくなって、営業が続かず空く店舗もありました。しかし新しい利用者が入り、現在の空き店舗は1軒だけです。

「商店街のみんなと、盛大なお祭りを開催したり、協力し合ってさまざまな取り組みをしたりと積極的に活動していることが活性化の秘訣では。」と大麻第三住区自治連合会の松本 光 会長（76歳）。空き店舗を利用した放課後児童センターや学習塾などでは、夕方になると近くの大麻西小学校からやってくる子どもたちの声であふれます。

「近くに新興住宅もできたので、これから若い人が増えるのではと期待しています。また新しい人が来て、住み変わっていくんですね。」と商店街の皆さんは明るく笑います。

はじめよう！ エコな生活

● わが家のエコガイド配布中！

節電のポイントのほか、エコクッキング、エコドライブ、生ごみの堆肥化など、家庭でできるエコライフ実践術を分かりやすく紹介しています。

配布場所／環境事務所、本庁舎1階エコ商品コーナー、公民館などの公共施設。ご希望の方には郵送します。



● エコドライブを心がけよう

環境とお財布にやさしいエコドライブを始めましょう。タイヤ空気圧の点検、アイドリングストップのほか、発進時に緩やかにアクセルを踏むこと、減速時は早めにアクセルを離すこと、不要な荷物をおろすことなどを実行し、CO₂排出量を抑えましょう。

【詳細】環境課 ☎ 381-1019



が集中し、若い力が豊富な場所でもあります。地域の夏祭りや除雪の手伝いなど、学生のボランティアなどによる協力は、大麻地区にとって欠かせない活力となっています。

●再生に向けたプロジェクト
大麻団地周辺の地域力の活性化を目指し、平成21年には商工団体、大学、自治会および市などで作成した「大麻団地まちづくり指針」を策定。重点課題を整理し、活性化に

向けた取り組みを進めており、若い世代の入居や学生がまちづくりに参加するなど少しずつ努力が実り始めています。

若い力や経験豊富な住民の力を活かし、産学官民をあげた取り組みで、次のステージへ向けた再生の光が見えてきます。

＊次回は、大麻団地再生へのさまざまな取り組みを紹介します。

【詳細】市役所大麻出張所 ☎ 382-4855